

神河町景気動向調査報告書(調査対象：令和7年4～7月)

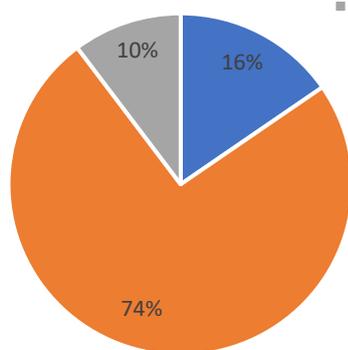
製造業				建設業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加(好転)	1	1	0	増加(好転)	2	2	1
不変	2	2	3	不変	7	7	8
減少(悪化)	2	2	2	減少(悪化)	3	3	3
小売業				サービス業			
	売上	採算	業況		売上	採算	業況
増加(好転)	3	2	2	増加(好転)	4	4	3
不変	3	4	4	不変	7	6	7
減少(悪化)	5	5	5	減少(悪化)	0	1	1

【神河町の今期の景況】

全体の傾向として、多くの事業者が厳しい経営環境に置かれていることがうかがえる。特に小売業は、少子化や価格競争、コスト高という複数の課題に直面していることが明らかになった。一方、建設業やサービス業では、業況が二極化している可能性が示唆される。

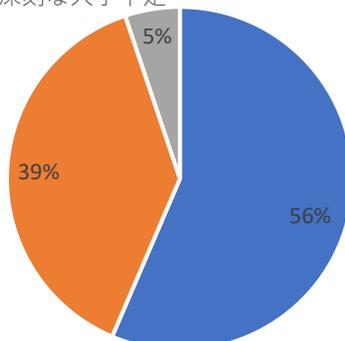
資金繰り

■ 1. 安定 ■ 2. 不変



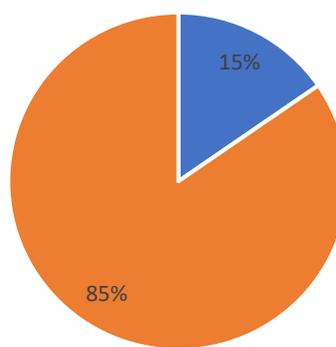
人手の状況

■ 1. 充足している ■ 2. やや不足 ■ 3. 深刻な人手不足



設備投資

■ 1. 実施した ■ 2. 実施していない



【兵庫県内の景気動向】

県内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。こうした中、生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

【今期の景況を踏まえた今後の経営に関する重要点】

多くの小規模事業者は、原材料費や人件費の高騰、そして少子化による顧客減少という課題に直面している。こうした状況を打破するため、まずコスト削減と付加価値向上による価格転嫁を図るべきである。加えて、新たな顧客層の開拓や事業の多角化といった戦略が不可欠である。これらの取り組みを円滑に進めるには、国や地方自治体の補助金・支援制度を積極的に活用することが重要である。